

stratum

KUNST ARZT では、2年ぶり3度目となる新宅加奈子の個展を開催します。新宅加奈子は、自身の裸に絵の具を纏うアーティストです。高校生の頃から継続しているという「今ここにいる」という実感を得る為のこの行為は、彼女にとっては表現以前に儀式のようでもあります。昨年のヨコハマトリエンナーレという大きな舞台でのパフォーマンスにおいても、舞台表現に組み込まれたパフォーマンスにおいても、淡々と「今ここにいる」という存在証明を行ってきました。本展でも、初の公開パフォーマンスを行った2018年の個展と同様に、パフォーマンスと身体を軸に作られた作品群からの構成です。

(KUNST ARZT 岡本光博)



個展「Embodiment」(2019)  
でのパフォーマンス

経歴

1994 大分県出身

2019 京都造形芸術大学 総合造形領域修了

主な個展

2018 I'm still alive, Kunstarzt (京都)

2019 embodiment, Kunstarzt (京都)

2019 indication, 京都写真美術館 (京都)

2019 indication, KKAG Gallery (東京)

2020 Then, Fabcafe Kyoto (京都)

主なグループ展ほか

2019 ヨコハマトリエンナーレ 2020 エピソード00 (神奈川)

2019 シブヤスタイル vol.13 西武渋谷美術画廊 (東京)

2019 「現代茶ノ湯スタイル展縁-enishi-」西武渋谷美術画廊 (東京)

2019 アジア新人アーティスト芸術祭 (ソウル/韓国)

2020 カドウ建築の宴 in OPAM 出展 (大分)

2020 京都府新鋭選抜展 / 京都文化博物館 (京都)

2020 raw - 精神と肉体の展覧会 - 京都芸術センター co-program D 採択企画 / 舞台公演 (京都)

2021 「Up\_01」銀座 蔦屋書店 GINZA ATRIUM (東京)

2021年7月31日(土)から8月8日(日)

12:00から18:00 月曜日休み

会場: KUNST ARZT

605-0033 京都東山区三条神宮道北東角 2F

## stratum

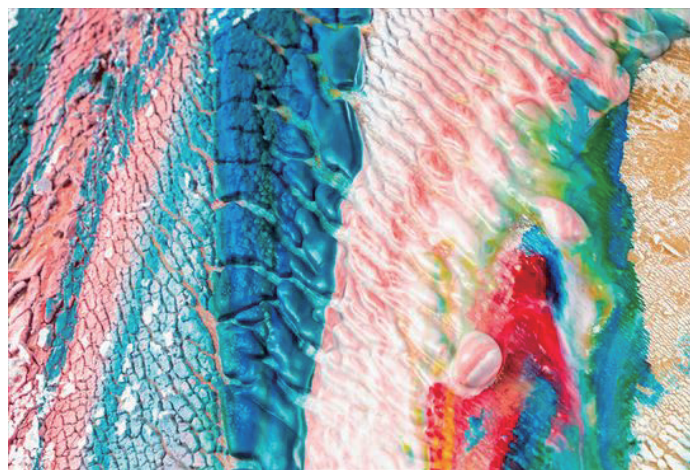
### アーティストステートメント

全身に絵の具を纏う行為は、私の生きるために必要なアプローチです。  
私はその行為から作り出されるものが、次第に地層のように感じられてきました。  
自身の生きた行為がゆっくと重なっていき、層となって時間の流れを表していく。  
きっと、最後には私自身が層となり、大地に溶け込んでいくのだと思います。

The act of wearing paint all over my body is a necessary approach to my life.  
I have gradually come to feel that what is created from this act is like a stratum.  
My own acts of living are slowly overlapping, forming layers that represent the passage of time.  
I am sure that in the end, I myself will become a layer and blend into the earth.



I' m still alive  
2021  
インクジェットプリント / サテン紙 / アルミ複合板加工  
w1456×h1030(mm)



I' m still alive  
2020  
インクジェットプリント / サテン紙 / アルミ複合板加工  
w432×h356(mm)

時々私は裸になって絵の具を全身に纏います。皮膚の上で混ざり合う絵の具は、私が私である事を超え、人間という身体を持った存在である事も忘れさせます。それは単なる欲求や衝動ではなく、自分が自分として生きていく為に必要な行いとして始まりました。むしろ、儀式のようなものだったのかもしれない。私の日常のなかで現実感が希薄になり、放っておくと、「今ここにいる」という実感が徐々に失われていき、その恐怖で、私の心身は硬直してしまう事があります。その為、私はこの儀式を繰り返す事により、そのような恐怖を取り除き、そして確かに生きている事を確認しているのです。



FLOW  
2021  
ミクストメディア  
w227×h227(mm)  
この作品は、身体の動きから描かれたものです。  
私は生きている事を確認するために、全身に絵の具を纏う行為を行っており、その行為を行なっている際、身体の動きによって流れ出る絵の具の軌跡をキャンバスに写し込みました。  
絵の具をすくい取り、それを身体へ纏う際、また、纏った絵の具が身体から滴り落ちる際、床には徐々に絵の具が蓄積されていきます。  
流れる塗料と蓄積していく塗料、時間の経過、線から面へ、そういった形状の変化が映し出されています。私はこの変化とともに生きている事の可視化を行なっています。